Unit 8

Dialog 概要

pp.48-49

* 秋山教授は建築は一種の芸術であるが，環境に責任を持ち，使用する人々にとって快適なものであるように創造するべきものであるとする。では，小学校の建築計画に着手する場合，どのようなことを考慮しなければならないだろうか，と学生たちに問い掛ける。
* まず初めに場所である。小学生は徒歩で通う場合が多いがどのような影響を考慮して決める必要があるかと秋山教授が投げかけると，ルミは幹線道路の近くに建てるべきではないと言う。そうすれば交通事故に遭う危険性を減らすことができ，授業の邪魔になるような騒音も最小限に抑えることができるからだ。
* デヴィッドは，小学校には広い運動場があった方が良いので郊外地区に建てるべきだとする。公園や森林が近くにあれば自然と触れ合う機会もできると言う。
* アカネは未開発の地域を使用すると，森林を（木を切り取る）しなければならないので，環境破壊になるだろうと指摘する。
* 秋山教授は皆の意見が全て意義のあるものだとし，子どもたちに結果として広い運動場を提供することになっても，環境を破壊しないように配慮すべきだとする。また，秋山教授は議論を次の段階に移し，学校を都市しかも交通量の多い道路の近くに建てなければならない場合，さらに敷地が狭い場合に何が最大の材料（心配な事）となるかを学生に問い掛ける。
* ルミは騒音を遮断する方法を見つけることが必要だと言う。地域環境に適合する構造が必要で，例えば暴風などへの耐性が必要な場合には厚い頑丈な壁が必要となるということだ。
* デヴィッドは暗がりに犯罪者が潜む可能性があるので学校の内側も外側も常に照明をつけておいた方が良いとする。
* 大気汚染から子供たちを守る為に植物が良いと言うアカネの意見にデヴィッドも賛成し，花も置こうと言う。花は美しいし，大人にも子どもにも同様に心地よい雰囲気にしてくれる。アカネは入口に花を飾ろう，訪問客を歓迎する気持ちを生み出してくれるからと言う。デヴィッドはそれが大事な事だとし，全体として学校は生徒たちが学習して成長するのに安全で歓迎するような楽しい環境を提供するものにすべきだと言う。

Part 1概要

* 秋山教授と学生たちは小学校の建築計画の話題について話し合う。第一に，教授は小学校の場所について問い掛け，学生たちは多くの良いアイディアを挙げる。次に，教授は学校を都市しかも交通量の多い道路の近くに建てなければならない場合で敷地が狭いという状況について問い掛ける。

Part 2概要

* 秋山教授と学生たちは小学校の建築計画の話題について話し合う。第一に，教授は小学校の場所について問い掛ける。
* ルミは道路や通りから十分離れた場所に建てるべきだと考え，交通事故の危険性を減らしたり，授業に対する交通の騒音も最小限に抑えたりするのに有効だとする。
* デヴィッドは，広い運動場や自然と触れ合う機会もできるので小学校は郊外地区に建てた方が良いと考える。
* アカネは森林を伐採することになるので環境破壊になってしまうという事について注意を促す。
* 秋山教授は次に学校を都市で交通量の多い道路の近くに建て，敷地が狭いという状況について問い掛ける。

Part 3概要

* 秋山教授と学生たちは小学校の建築計画の話題について話し合う。教授は小学校の場所について問い掛けることから始める。
* ルミは道路や通りから距離を置いた場所に建てるべきだと考え，交通事故の危険性を減らしたり，授業に対する交通の騒音も最小限に抑えたりすると言う。
* デヴィッドは，広い運動場や自然と触れ合う機会もできるので小学校は郊外地区に建てた方が良いと考える。
* アカネは森林を伐採することになるので環境破壊になってしまうという事について注意を促す。
* 秋山教授は次に学校を都市で交通量の多い道路の近くに建て，敷地が狭いという状況について問い掛ける。
* ルミは騒音を遮断する方法を見つけることが必要だと言う。地域環境に適合する構造が必要で，例えば暴風などへの耐性が必要な場合には厚い頑丈な壁が必要となるということだ。
* デヴィッドは暗がりに犯罪者が潜む可能性があるので学校の内側も外側も常に照明をつけておいた方が良いとする。
* アカネは植物が大気汚染から子供たちを守ってくれると言う。デヴィッドも賛成し，心地よい雰囲気にしてくれる花も置こうと言う。アカネもこの考えを支持し，入口に花を飾れば学校は訪問客を歓迎する気持ちを生み出してくれるのに役立つとする。